

広島から生まれた“三つの叙情”

～平塩清種・Steve Dobrogosz・村下孝蔵～

広島が生んだ3つの“うた”を集めました。一見、全く異質なものに感じられると思いますが、共通しているのは深い叙情性、そして、父母や故郷への深い愛です。平塩清種氏は広島在住の叙情詩人として知られ、作品のほとんどは平易な口語体で書かれています。その詩に私が作曲し山下雅靖氏のピアノ、今田陽次氏の独唱でお送りしたいと思います。ドブロゴス氏はスウェーデン在住の作曲家です。広島にも5度、訪れております。今回は星野富弘さんの詩に作曲した「つばき・ばら・ペンペン草」を、作品を贈呈された昆野智佳子さんの独唱でお届けいたします。村下孝蔵さんは、青春時代を広島で過ごしその名曲の多くは広島で生まれています。日本語をととても大事にしたその作品はジャンルを超え、多くの日本人の心に浸みこんでいきます。ゲストによる逸話を交え、新たな編曲でお聞きいただきます。

寺沢 希



昆野 智佳子 (ソプラノ)

エリザベト音楽大学声楽科卒業。バロック～古典派宗教曲、歌曲を主なレパートリーとし、合唱の分野ではジャパンユース合唱団、アジアユース合唱団等で研鑽を積む。現在、エリザベトシンガーズ正団員、The Cygnus Vocal Octet、メンバー。広島女声合唱団、コーラスグループ☆ベガ、ヴォイストレーナー。エリザベト音楽大学付属音楽園合唱団プエリカントンテス、コールくらはし、指揮者。広島中央合唱団、Kammerchor Hiroshima Kantorei、コンサートミストレス。エリザベト音楽大学付属音楽園非常勤講師。同大学エクステンションセンターステップアップコース講師。声楽を藤賀醇子、平田恭子、故鈴木仁、榊原哲、波多野睦美の各氏に師事。2013年エマ・カークビーのマスタークラス受講。iTunesにて「Bara」(スティーブ・ドブロゴス氏と共演)をリリース。



今田 陽次 (バリトン)

エリザベト音楽大学宗教声楽コース卒業。卒業後、10回のソロリサイタルを開催。声楽を故鈴木仁、平田昌久、波多野睦美の各氏に師事。広島中央合唱団、Men's Vocal Ensemble “寺漢”、Hiroshima Kantoreiコンサートマスター兼、ヴォイストレーナー。合唱団そら、広島少年合唱隊、広島メンネルコール、シニア大学混声合唱団、ヴォイストレーナー。Hiroshima Bach Soloists、エリザベトシンガーズ正団員、アンサンブルひなた所属。



山下 雅靖 (編曲・ピアノ)

1991年の独奏会以降、今日まで数多くのコンサートに出演。ピアノ独奏の他、室内楽、伴奏、作曲、編曲、無声映画上映時での即興演奏など活動は多岐にわたる。近年は「耳なし芳一」「三枚のお札」「アメニモマケズ」「むかえ地蔵」などの脚本、作曲を手がけ好評を博す。エリザベト音楽大学ピアノ専攻卒業。びあの学校代表。



那須 和男 (ゲスト)

法政大学在学中アリオンコールで、田中信昭先生に指導を受ける。卒業後中国放送入社。ディレクター時代に村下孝蔵と知り合い、27局ネット「青春音楽列島」で取り上げ紹介、以後亡くなるまで20年間交流を続ける。定年後はハワイアンと混声合唱さくらで、ステージに立っている。廿日市市合唱連盟理事。



平塩 清種 (ゲスト)

詩人。
日本ペンクラブ会員。
中四国詩人会会員。
LC生涯学習教養講座 主宰。
著書に、「夢のあとさき」「言の葉」「情」…他多数。
広島在住の叙情詩人で、その作品のすべてが平易な口語体で構成されている。